

サイレージー原料としての二条大麦について (第I報) 二条大麦の青刈収量について

中村大四郎・八木 俊
(佐賀県農業試験場)

NAKAMURA, D. and YATSUKI, S.
Studies on the Utilization of Two-rowed Barley for Silage.
(I) Soiling Yields.

佐賀県では二条大麦を原料としたサイレージーが作られるようになり、良質のものが得られ好評である。我々もこの問題について試験してきたのでその概要を報告する。

I. 試験方法

一般にビール麦として作られている4品種について、前進及び日向黒を対象として比較した。播種は11月中～下旬、条間25cmに0.75kg/aを条播し、施肥量、3区分について生草収量、乾物収量等について調査した。

II. 試験結果ならびに考察

二条大麦の各品種がエンバクより出穂期で1ヶ月前後早熟性である。草丈も二条大麦が早く伸長するため4月10日～20日までは高いが、その後はエンバクが著しく高くなる。

生草収量も草丈の推移同様4月10日頃までは二条大麦が多いが、その後逆にエンバクが多くなった。最高収量はいずれも出穂期で二条大麦は400kg/a、エンバクは650kg前後であった。

乾物収量は生草収量とかなり異り、暦日で比較す

れば二条大麦が多く、1日当りの生産量は多い。生育ステージでは出穂期にわずかにエンバクが多く、成熟期近くになってエンバクが多くなる。しかし生草収量に比べ乾物収量の差は少ない。

すなわち第1表のとおり二条大麦の乳熟期である5月1日の生草収量は大体300kg/aで水分は70%である。これに対しエンバクは5月10日で670kg、5月20日で610kgとなり倍以上の差があった。乾物収量では前者の94kg/aに対し5月10日で86kgで逆に少なく、5月20日ではじめて差がなくなり、乳～糊熟期にならないと多くならないことが示された。

以上の結果から、サイレージ材料として5月中旬までにサイロ詰めをする場合は二条大麦を、それ以後に詰める場合はエンバクを栽培するのが収量面から有利である。従って水田裏作等、前後作との関係から二条大麦の利用価値は大きい。

また水分が早く減少し、出穂揃でサイロ詰め適水分となり予乾作業等の面からも有利であり、さらに、4月下旬～5月上旬の比較的農閑な時期が利用できる利点もある。

第1表 二条大麦とエンバクの時期別収量 N. 1.1kg/a 区

区 分	刈取月日 項 目	3. 20	3. 31	4. 10	4. 20	5. 1	5. 10	5. 20	6. 1	6. 10
		二条大麦 (成城17号)	生草kg/a 乾物kg/a 水分%	219.0 37.6 88.1	414.2 51.8 87.5	356.4 61.7 82.7	273.5 66.5 75.7	300.6 91.4 69.6	284.8 94.0 67.0	230.3 93.7 59.4
エンバク (前 進)	生草kg/a 乾物kg/a 水分%	135.8 15.8 88.4	217.2 20.9 90.4	423.4 35.6 92.0	545.9 51.3 90.6	658.6 72.4 89.0	676.8 86.0 87.3	610.1 95.2 84.7	561.6 113.4 80.1	391.9 118.0 69.9

第2表 二条大麦エンバクの品種別生育と収量

品 種 名	出穂期 月 日	乳熟期 月 日	草 丈 cm		生草収量kg/a		風 乾 率 %		風乾物収量kg/a	
			4月30日	5月10日	4月30日	5月10日	4月30日	5月10日	月 日	月 日
			ふじ二条 成城17号 きつき二条 日向黒 前 進	4. 11 4. 8 4. 12 5. 1 5. 20	5. 4 4. 30 5. 4 5. 20 6. 5	93.6 93.9 94.4 99.6 85.9	95.6 91.2 89.7 103.5 104.3	250 327 323 330 327	200 225 330 353 428	28.9 31.9 32.2 20.8 22.0